

課題番号:2021-027

IA3-III 期肺腺癌切除例における PD-L1 発現と予後との関係

作成日 2026 年 06 月 01 日 第 5.1 版

研究責任者:

国立がん研究センター東病院 呼吸器外科 科長 青景圭樹

1. 研究の対象

2014 年 1 月から 2016 年 12 月までに当院で手術が行われた原発性非小細胞肺癌 pIA3 期から III 期(TNM 分類第 8 版)、完全切除手術を受けた患者さんのうち包括同意が得られた既存試料が利用可能な患者さんを対象とします。

2. 研究目的・方法

早期の肺がんに対しての標準治療は外科手術ですが、早期肺がんの中でも予後不良の集団があり、その集団を同定し、追加治療を行うことは早期肺がんの予後改善につながります。

その予後を評価する際に、観察期間が短いと手術成績が過大評価されてしまう欠点があります。そこで当院の成熟したデータベースを使用して、さらに 2014 年から 2016 年の肺癌手術を受けた患者を新病期分類に再分類したうえで、病理病期 IA3-III 期と対象として予後不良の集団を同定する研究を行います。

2014 年 1 月から 2016 年 12 月までに当院で肺癌手術を受けて、かつ病理病期 IA3-III 期非小細胞肺癌患者と診断された 350 名を対象とします。既に手術で切除された病理検体の残余検体を用いて PD-L1 染色を行い、PD-L1 の発現率を測定します。その結果と当診療科内のデータベースからの情報と合わせて新病期分類や CT 所見、EGFR 変異や病理学的浸潤径、脈管浸潤などを含めて予後因子同定のため統計解析を行う予定です。

研究実施期間:研究許可日～2030 年 12 月 31 日まで

3. 研究に用いる試料・情報の種類

情報:年齢、性別、喫煙歴、手術所見、画像所見、検査所見、治療経過、EGFR 変異の有無、PD-L1 の発現率、再発形式、予後など

試料:切除病理標本のブロック

4. お問い合わせ先

本研究に関するご質問等がありましたら本研究の研究責任者がご対応いたしますので、下記の連絡先までお問い合わせ下さい。

ご希望があれば、他の研究対象者の個人情報及び知的財産の保護に支障がない範囲内で、研究計画書及び関連資料を閲覧することが出来ますのでお申出下さい。

また、試料・情報が当該研究に用いられることについて患者さんもしくは患者さんの代理人の方にご了承いただけない場合には研究対象としますので、下記の連絡先までお申出ください。その場合でも患者さんに不利益が生じることはありません。

照会先および研究への利用を拒否する場合の連絡先:

研究責任者/研究事務局

国立がん研究センター東病院 呼吸器外科 青景 圭樹/野村 幸太郎

〒277-8577 千葉県柏市柏の葉 6-5-1

TEL 04-7133-1111